

執筆者紹介

陳慧思 Lydian Chan

粵劇役者・香港粵劇曲芸協会副主席。

湛黎淑貞 Esella Cham Lai Suk-ching

宜樂(香港)顧問有限公司董事長。『香港粵劇叙論』(編)

陳守仁 Saunyan Chan

元香港中文大學音樂系教授。『本子熱劇研究』上・下『儀式・信仰・演劇—神功粵劇在香港』『香港粵劇導論』

佐治俊彦 Saji Toshiko

一九四五年生まれ。中国現代文学。「日本の唐人町と内地雑居」『かくも美しく、かくもけなげな—「中国のタカラヅカ」越劇百年の夢』「内モンゴル文学管窺—リグゼン文学から覗く内モンゴルの文学と生活」

立石謙次 Taisshi Kenji

一九七三年生まれ。東海大学文学部歴史学科 東洋史専攻・講師。西南中国民族史。『雲南大理白族の歴史ものがたり—南詔国の王権伝説と白族の観音説話』『清初雲南大理地方における白人の歴史認識について—「白国因由」の研究』「雲南省大理白族(ペー族)の白文(ペー文)における表記規範の一考察—特に「訓仮名」と「造字」とを中心に」

榎原真理子 Sakakibara Mariko

愛知県立大学大学院国際文化研究科国際文化専攻博士後期課程。中国近現代文学・演劇。「中国話劇のリアリズム—二〇一四年版『人形の家』を手掛かりに」「中国におけるプレヒトの受容と評価」

黎鍵 Lai Kin

粵劇研究家、コラムニスト、香港民族音楽学会理事、香港政府演劇發展局戯曲委員会委員、「粵劇之家」試験計画副主席などを歴任。『香港粵劇口述史』『香港粵劇叙論』

魯大鳴 Lu Daming

一九五八年生まれ。明治大学法学部兼任講師。中国演劇・京劇。『京劇入門』『京劇への招待』『現代中国の文化』(共著)

禾一瞭 Ka Yichingyon

愛知大学上海交流センター所長。書法篆刻、清末吳昌碩を中心に日中の芸術交流史。「中国文房具の周辺」

津田忠彦 Tsuda Tadahiko

一九四二年生まれ。NPO京劇中心理事長。「浙江小百花越劇団招聘講演のこと」

バラシユ・サロントイ Balasz Szalonai

一九七二年生まれ。高麗大学校人文大学北韓学科教授。歴史学博士(中央ヨーロッパ大学)。ウッドロー・ウィルソン・センター客員研究員等を経て現職。Kim Il Sung in the *Khrushchev Era: Soviet-DPRK Relations and the Roots of North Korean Despotism, 1953-1964* (Cold War International History Project); *North Korea Caught in Time: Images of War and Reconstruction*

菊地俊介 Kikuchi Shunsuke

一九八四年生まれ。愛知大学国際問題研究所
客員研究員・立命館大学BK C社系研究機構
客員研究員。中国近現代史・近現代日中関係
史。「日本占領下華北における新民会の「青
年読物」二「日本占領下華北における新民会の
女性政策」一「日本占領下華北における新民会
の青年政策」

三好章 Mhyoshi Akira

一九五二年生まれ。愛知大学現代中国学部教
授。中国近代史、中華人民共和国教育史。
『摩擦と合作 新四軍1937-1941』『叙事詩の
時代の抒情』(翻訳)、『根岸估著作集』全五卷
(編 刊行中)

樋泉克夫 Hizumi Katsuo

一九四七年生まれ。愛知大学現代中国学部教
授。華僑・華人論、京劇史。「地球規模で版
図拡大する中国」水・陸・鉄・空路結ぶ計画
着着」「華人」がカギ握る中国経済発展」
「中国の「経済危機」に思う」

翻訳者紹介

張玲 Zhang Ling

一九七五年生まれ。愛知大学国際中国学研究
センター客員研究員。中国文化・教育。「中
国中央政府の教育政策動向に関する考察」

学会通信

◎学会員活動(二〇一六年一〇月〜二〇一七年三月)
加治宏基 「中国の国連平和維持活動」(『中
部経済新聞』二〇一六年二月一日)

川村亜樹 「大統領選挙とアメリカ文学」(シ
ンポジウム司会・発表、日本アメリカ文学
会第五回全国大会、於ノートルダム清心
女子大学、二〇一六年一〇月二日)

黄英哲 「願做一个敗北者」一兩位台湾詩
人的「1949」(学会発表、「跨越19

49・文学與歴史国際学術研討会」台北・
中国現代文学学会、国立中央大学中文系、
国立東華大学華文文学系、シンガポール南
洋理工大学中文系共同主催、二〇一六年一
二月二五-二六日)、「台湾文化人における
「抗日戦争」(愛知大学国際問題研究所編
『対日協力政権とその周辺―自主・協力・
抵抗』あるむ、二〇一七年三月)

高明潔 「中国における国民建設の多元化表
象―民間マスメディアの映像分析に基づい
て」(口頭発表、NIHU現代中国地域研
究愛知大学拠点ICCS社会・歴史のアプ
ローチ班第一〇回日中国社会構造研究会、於
愛知大学名古屋校舎、二〇一六年二月一
七日)

砂山幸雄 「揮代英をめぐる最近の研究動向

芦沢知絵 Ashizawa Chie

一九八〇年生まれ。法政大学兼任講師。中国
近代経済史。「在華紡の福利厚生―内外綿上
海工場の事例を手がかりとして」「内外綿の
中国人管理者と監督的労働者―「特選工」から
「役付工」へ(一九一一-四五年)」

赤松美和子 Akamatsu Miwako

一九七七年生まれ。大妻女子大学比較文化学
部准教授。台湾文学・台湾映画。『台湾を知
るための60章』(共編著)『台湾ポストニュー
シネマの日本表象―「悲情城市」(一九八九
年)から『海角七号』(二〇〇八年)へ』『台湾
文学と文学キャンペーンインタビューな創
造空間』

について、「愛知大学国際問題研究所紀要」第一四九号、二〇一七年三月）

唐燕霞「中国城市基層社会治理結構的探討——以江蘇省南京市為例」（国際シンポジウム報告、蘇州大学第二回城市发展論壇、二〇一六年十一月八日）、「中国式労使關係的特徵與日資企業人力資源管理的課題」（清華大学国際シンポジウム「改革開放與日本」二〇一七年三月一八日）、「淺談台灣的「社区营造」與居民自治以及对中国大陆的啓示」（台湾銘伝大学社会科学学院公共事務学系主任國際シンポジウム「第十一回轉型與治理學術研討会」二〇一七年三月二四日）

樋泉克夫「東南アジアの部屋」（連載、『Foreigner（電子版）』新潮社）、「変貌する華僑・華人政策——チャイニーズ・ネットワークの現在を考える」（講演、愛知大学オープンカレッジ、二〇一六年十二月二一日）、「中国から見た東南アジア大陸部——『大西南対外通道図』を参考にして」（研究発表、日本現代中国学会東海部会、二〇一七年三月四日）

松岡正子「四川の黒水チベット族と「獐狽子」伝承」加納寛編『書院生、アジアを行く——東亜同文書院生が見た二〇世紀前半のアジア』（あるむ、二〇一七年三月）、『青蔵高原東部のチャン族とチベット族——

2008 汶川地震後の再建と開発』（あるむ、二〇一七年三月）、『二〇〇八 汶川大地震

災後重建過程中的農村城市化的現状與課題——四川阿壩藏族羌族自治州の羌村為例』（第二屆城市发展論壇「城市公共管理——理念、組織、政策與實踐」於蘇州大学、二〇一六年十一月五日）

三好章「維新政府の対日交流——中小学教員訪日視察団の見たもの」（愛知大学国際問題研究所編『対日協力政権とその周辺——自主・協力・抵抗』あるむ、二〇一七年三月）

訂正

Vol. 45 202頁下段 翻訳者紹介に追加

村上 亨二 Munakami Kyoji

一九五八年生まれ。愛知大学国際問題研究所客員研究員。中国政治・外交。一九六〇年代前半における中国とアフリカの関係「中国の対アフリカ宣伝活動」一九六〇年代前半中共與非洲接触及国府之反応」

以上、お詫びして訂正いたします。

中国 21 Vol. 47 予告（17年9月刊予定）

特集●中国古典美術

——21世紀からの視線（仮題）

現今、中国の古典美術は影が薄い。西洋・日本美術の展覧会が多くの観客を集める一方で、中国古典美術は接することすら難しい状況となっている。しかし、飛鳥時代の仏教伝来以降、日本人の美意識を涵養し、鑑賞の中心対象となってきたのは、長く中国美術であった。とすれば、我々の美術活動にもその影響はのこっている。いなその素養を活かした現代美術の展開も、のぞめぬわけではない。

本特集では、その歴史を踏まえつつ、21世紀からの視線で中国古典美術を捉え直してみる。仏像ブームが有り、街に書道教室の栄える現在、中国古典美術はどのように社会に受け容れられているか。また現代社会に対して如何なる意義を持つか。ただの古くさい骨董趣味としてでなく、我々の美的生活に影響を与えうるものとして、あるいは精神生活に刺激を与えるものとして、中国古典美術の新たな価値を見いだすべく、各分野、各国の論客を集めて考えてみたい。あわせて中国古典美術に接するための、案内も併載する。

編集後記——むすびにかえて

◇中国には「好戲還在後台呢」ということばがある。面白い芝居は舞台が跳ねた後の楽屋で、という意味合いだろう。さて、本特集の編集作業を終わって思い浮かぶのは、やはり「好戲還在後台呢」の七文字だ。それというのも編集者自身、編集作業を通じてこれから究めてみたい新しいテーマが見つかったと同時に、本特集を通じて、より多くの読者が中国の芝居に興味を持ってもらいたいと思うからだ。◇やはり戯劇(しばい)は客席に黙然と座つていれば「好戲」になるわけではない。役者の側が五体を鍛え上げているように、観客もまた、それ相応の素養を身につけていない限り「好戲」を「好戲」として愉しむことなどできない。◇やや唐突なたとえだが、一九九三年の年末、シアトルでのAPEC(アジア太平洋経済協力)会議に参加したあしでキューバ・ブラジルなどを訪問しての帰途、江沢民(当時、中国共産党総書記兼国家主席)は専用機のなかでカラオケのマイクを握り、同行者へのサービスと京劇の一節を唱ったと、当時外電が伝えていたことを思い出す。予想外の外交成果が中国の指導者の心を昂らせた、京劇を披露するに及んだというのだ。この時、彼にとって京劇は何を意味していたのか。◇やはり中国という世界は、日本人にとっては春先の道路の遙か前方に立ち現われる「逃げ水」のようなものだと思う。たどり着いたと思つた瞬間、フツと消え去って再び前方に現れる。判つたと思つた瞬間に厚い雲間に覆われ、見えなくなってしまう。◇日本にとつていよいよ重い存在となる中国を如何に理解するのか。これまでのように四角四面に考えず、芝居を楽しむながら、彼らの振る舞いの意味するところに思いを致すのも一考だと思ふ。芝居を愉しみながら芝居の先に広がる広大な無辺な中国という世界を見届けることができたら……そんな念を抱きながら、擲筆としたい。

(樋泉克夫)

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論考を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度(400字詰原稿用紙換算) ③ワープロソフトで作成した原稿の打ち出し2部およびデジタルデータを提出。デジタルデータはeメールでの送信も可。

〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会 E-mail: china21@ml.aichi-u.ac.jp

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21編集委員会

〔編集長〕黄英哲 加治宏基 木島史雄 高橋五郎 樋泉克夫 松岡正子 三好章

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

中国21 Vol.46

特集 中国の芝居

——昨日・今日・明日

2017年3月31日発行

ISBN 978-4-497-21706-6 C3074

編集	愛知大学現代中国学会 名古屋市千代田区平池町4-60-6 〒453-8777 Tel. 052-564-6128 Fax. 052-564-6228
発行人	安部 悟
発売元	株式会社 東方書店 東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001
制作印刷	株式会社 あるむ 名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861